

平成24年度第2回産業振興計画フォローアップ委員会農業部会（審議の概要）

平成25年1月10日（木）13:30～16:30

高知県立人権啓発センター6階ホール

【1】第2期産業振興計画の取組状況等およびH25年度に向けての計画改定のポイントについて

※事務局から今年度12月末の進捗状況を説明し、ほぼ計画どおり進んでいると評価。また、25年度に向けての計画改定のポイントについても了承された。

1) まとまりのある園芸産地総合支援

（A委員）

産業振興計画が県の主導で進んでいるが、生産や販売については、農協の役割も非常に大きいのではないかと。営農指導員との連携はどのようにしているのか。

（事務局）

「学び教えあう場」の取組では、生産者が講師となり、農協の部会を対象に現地検討会や講習会の開催、現地実証圃の設置など、営農指導員と連携し共催で行っている。

また、県域の勉強会、交流会を通じて技術の交流や情報共有に努め、品目や面積の拡大に取り組んでいる。

2) 環境保全型農業のトップランナーの地位を確立

（B委員）

オランダの研究や交流に取り組んでおり具体的に進んでいるようだが、次のステップをどのようにしていくのか

（事務局）

高知県とオランダでは経営規模やハウスの軒高、気候風土も違うため、温度、湿度、照度などを組み合わせ、高知県にあった環境制御の技術を確立していく。炭酸ガス施用装置や高軒高ハウスも生産現場で導入されはじめ、オランダ視察に参加した生産者が技術革新に取り組む事例もみられている。こういった動きを加速化するために、H25年度は農業振興センターやJAが中心となり、希望する農家やグループに実証圃として先進技術の導入に取り組んでもらい、県内に広げていくよう考えている。

3) 流通・販売の支援強化

(C委員)

花きについては、花が日常生活から離れていっているのではないか。花の大きなイベントを行うことで、足を運び花を買おうという気になるのではないか。

(事務局)

高知県の花の消費は全国でも低い方。花に接する機会や花をめるといったことも含めて、花の消費拡大やイベントに繋げていきたい。また、花の展示商談会やアドバイザー、新たな品種育成にも取り組んでいく。

4) 品目別総合戦略(畜産)

(B委員)

土佐あかうしのブランドが見直されているとよく聞く。ところが、せっかくブランド力が高まってきても売れる肉がないという状況があり、H25年度からは生産基盤の拡充を行うとあったが、このブランド力を高める話と生産量を増やす話は車の両輪である。アドバイザーさんにも非常に頑張ってもらっているが、より一層ブランド力を高める取組を頑張りたい。また、ブランド力を高めていくということは、品質が確実に担保されているということだと思う。はちきん地鶏は、飼料で品質にバラツキが出ているのではないかという話を聞いたことがある。畜産は飼料が味に大きく関わることから、飼料や飼い方の統一化をしてはどうか。

(事務局)

土佐あかうしについては、アドバイザーとも連携し、引き続き全国に発信していく。土佐はちきん地鶏は、全国に300近いブランド地鶏がいる中で、さらに推進していくために、こだわりをもった飼い方とするというのは考えられる。畜産試験場で安全安心はもちろんのこと、こだわりのある飼い方が出来るような飼料成分の配合にも取り組んでいるので、さらにブランドの強化として取り組んでいきたい。

5) 6次産業化の取組による拠点ビジネスづくり

(D委員)

H25年度取組に伝統作物活用実証事業は、食文化を大きく考えた場合にはとても意義のあることだと思うが、実施品目として蕎麦や粟の説明があったが、品目としては県はどのくらい考えているのか。

(事務局)

現在、事業で取り組もうとしているのは、蕎麦、粟になってくる。過去には、県内の中山間地域での雑穀類を中心とした調査を県の試験機関と大学が連携してやってきた経緯もある。事業では、在来の作物に関する専門家を招聘し研修会を行い、地域で雑穀のみでなく地域の伝統野菜も調査し、希望品目等があれば対象としていきたい。

6) 中山間に適した農産物等の生産

(A委員)

ミシマサイコの販売先は、大手メーカー1社ということであったが、1社に絞ると会社の方向が変われば全部が変わるということがあるのではないかと。販売については、過去に薬草の取引で状況が変わったことで産地が自然消滅した経緯があるので、十分検討して進めて欲しい。

(事務局)

ご指摘の件については、過去に中山間で栽培面積が増えていた薬草が、メーカーとの取引の問題があり一挙に減った経緯はある。再度の取組ということで、今年度は当初からメーカーと打合せをしながら進めている。薬草の取扱のシェアは、大手メーカーが8割を占め、残り2割に多数がひしめいている状態のため、現状では、大手メーカーと計画を立てながら進めていく方向である。なお、それ以外の会社とも今後協議する中で可能性があれば出荷していくことも考えたい。